

カラマツとクリーンラーチのコンテナ苗木生産方法の開発

林業試験場 森林資源部 経営グループ 来田和人
今 博計

研究の背景・目的

- ・北海道でもコンテナ苗の試験植栽が始まっていますが、育苗技術が確立していません。
- ・コンテナ苗木には「初期成長が良い」、「いつでも植えられる」など多くの期待が寄せられていますが明らかになっていません。また現行のカラマツコンテナ苗木の育苗期間は3年でコスト高になっています。
- ・本研究では、植栽試験からカラマツとクリーンラーチコンテナ苗木の特性を明らかにするとともに1年でコンテナ苗木を生産する方法を開発しました。

研究の内容・成果

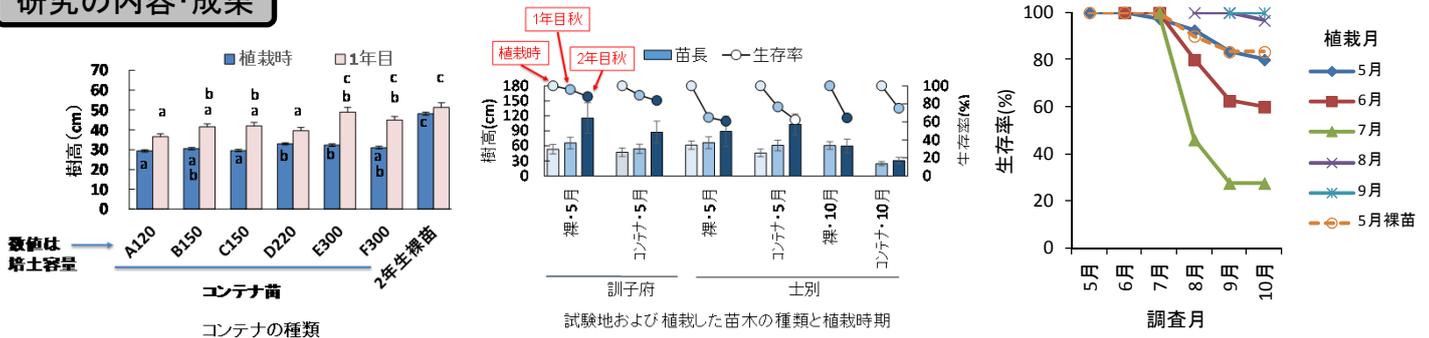


図-1 三笠試験地のカラマツコンテナ苗木の成長
アルファベットが異なれば大きさが統計的に異なることを示す

図-2 訓子府試験地、士別試験地のカラマツコンテナ苗木の活着と成長

図-3 三笠試験地のカラマツコンテナ苗木の植栽月別生存率

カラマツ1年生播種コンテナ苗木は培土（セル）の容量が大きいほど成長がよくなります（図-1）。裸苗の生存率が悪い立地ほどにコンテナ苗木の成績がよく（図-2）、試験地によっては植栽1年で裸苗に追いつきます。7月植栽の活着は植栽直後の降雨に大きく左右され植栽を避けるべきと考えられました（図-3）

● 訓子府2年間 ● 士別2年間 ▲ 三笠1年間 ● 訓子府2年目 ● 士別2年目 ▲ 三笠1年目

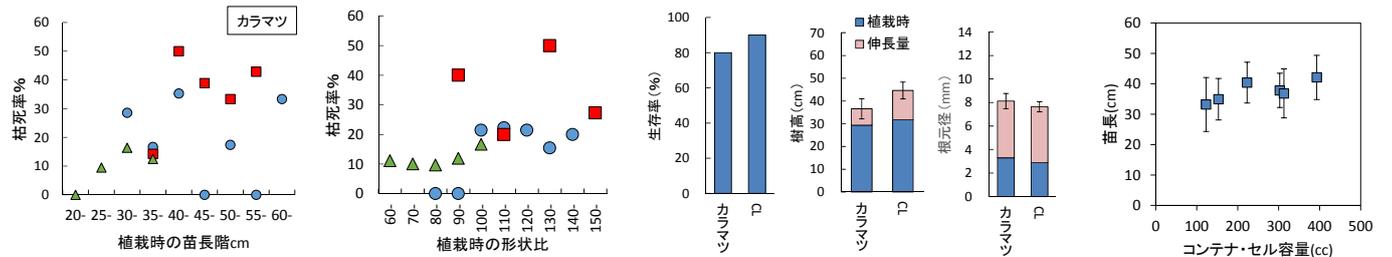


図-4 植栽試験地の苗長、形状比（苗長/根元径）別の枯死率

図-5 クリーンラーチ(CL)の植栽1年後の成績（三笠試験地）

図-6 コンテナ容量別のカラマツ1年生播種コンテナ苗木の苗長

区分	根元径	苗長	形状比 (苗長/根元径)
1号苗	4mm以上	30cm以上	90以下 クリーンラーチ 100以下
2号苗	3mm以上	25cm以上	90以下 クリーンラーチ 100以下

表-1 カラマツとクリーンラーチの1年生播種コンテナ苗木規格案



図-7 150cc(左)と300cc(右)コンテナで育苗したカラマツ1年生播種コンテナ苗木

・コンテナ	1号苗 300cc 2号苗 150cc
・培土	ピートモス100% or ココピート100%
・スケジュール	4月播種 8月はじめ～9月はじめ野外順化開始
・施肥	標準的な量～2倍量 (元肥 窒素0.64g/用土1L 追肥 窒素25-100ppm)

図-8 ハウスにおける1年生播種コンテナ苗木の育苗条件

苗長、形状比が低いと活着がよい傾向がありました（図-4）。クリーンラーチはカラマツより幹が細長くても高い生存率を保ちました（図-5）。それらの結果から表-1に播種コンテナ苗木の規格を提案し、1年で規格を満たす育苗方法を開発しました（図-6、7）。その育苗条件を図-8に示しました。

今後の展開

- ・得苗率の向上、特に肥大成長を促進する育苗方法（野外順化時期等）の精査
- ・植栽方法や苗木生産者の事情に応じた育苗方法の改良